



けいせん

2015.10.20



さわやかな秋晴れの日が続いています。子どもたちが持ってきてくれるおみやげも、まつぼっくり、どんぐり、キンモクセイなど秋を感じるものがたくさんです。先日は、汐井公園や九大へお散歩に行きました。広い公園で思いきり走りまわったり、ビニール袋いっぴいのどんぐりを拾ってきたり...と“秋”をたのしんで過ごしています。

入園原書の配布が始まり、お問い合わせの電話や見学の方も多くなりました。以前は自宅から一番近い園に行く方が（ほとんどだったのでしょうけれど）、今は、幼稚園も選ぶ時代。みなさん真剣に見ておたずねくださるので、私もできる限り時間をとって丁寧ににお答えしたいと思っています。

見学の方と一緒に園内をまわり、私たち大切にしていることをお話しする時、いつもくり返すキーワードがあります。「安心感」です。それまでご家庭でお父さん、お母さんに愛され守られて過ごしてきた子どもたちが初めて過ごす社会である幼稚園。「あなたのことを大好きな人が、大切に想っている人が、まわりにもいるんだ」ということを知ってほしい。たくさん愛を注がれて、その子らしくのびのびと過ごしてほしい。そう思います。安心して自分らしくいられる時にこそ、子どもたちは自らの持つ力で成長することができるのです。そして、安心できるあたりに必要な雰囲気を整え、見守り、必要な時に（子どもが求めている時に）援助するのが、私たち保育者の役割だと考えています。緊張の中、自由の中、不安の中では、子どもたちは力を発揮することができません。子どもが、子どもらしく子どもとして過ごせる限られた時期（幼児期）に、それにふさわしい環境を用意し、その時にしかできない経験をしてほしい。それができる幼稚園でありたいと思っています。

今も、園庭では子どもたちの元気な声が響いています。おにぎり、ポテトあそび、ブランコ、ままごとなど、友だちとたくさん話しながら笑顔いっぱい遊ぶ子どもたち。そのすぐ横にじっとおわりこんで真剣な表情で土を掘っている子。小さな手の中に大事そうに泥でんごを持ち、何度も何度も石をかけて（こ）磨いている子もいます。今日はみんなが気持ちがおさまりせず、みんなと外で遊ぶことができなかった子は、職員室で好きな絵本を2冊読んで（読んでもらって）、気持ちを切りかえることができ園庭に出ました。その子を「待っていたよ」と担任が迎えています。何気ない1日の1場面。そこにある自由と安心感。その中で育っていくと何本。何気ない？ いや大切な1場面です。

